

No. 3 1 8 5

錦繡と高層湿原最高峰を訪ねて 苗場山

実施日 2024年10月19(土)～20日(日)
天候 19日 晴れのち曇りのち雨
20日 みぞれのち曇り
リーダー 宮崎 敏男
参加者 宮崎敏男、佐藤聡美 計2名
費用 JR越後湯沢12,520円(東京起算割引後8,764円) レンタカー約4,000円/人 宿泊(山頂ヒュッテ)11,000円(2食付き)
タイム 19日 東京駅発(7:05)越後湯沢(8:04・Rカー)祓川町営駐車場(9:20)和田小屋・登山口(9:45)下ノ芝～中ノ芝～上ノ芝～小松原分岐～神楽ヶ峰(13:17)富士見坂～雷清水～お花畑～雲尾坂～山頂ヒュッテ着(14:55) 泊
20日 山頂ヒュッテ(7:25)苗場山(7:30)～高層湿原～雲尾坂～富士見坂～神楽ヶ峰(9:10)祓川コース～和田小屋(12:28)駐車場(12:45)
データ 距離14.5km/標高差1,703^m_往(累積) 行動 1日目 5h35m/2日目 4h58m

10/19

奇跡的な快晴の前週末と違って日本列島に横たわる前線が停滞してまったく不安定な天気。

しかし残りすくない今年の山行を惜しみ初日の天候持続と翌日の快復を信じて実施。

祈りが通じたか青空の中のスタート。Tシャツ一枚の夏日登山

とは神様のいたずらか！

夏山高速リフトも関係ねーと自



力歩行登山と粹がった(が口には出さず後悔…)おかげでブナやダケカンバの紅葉と下ノ芝から上ノ芝の赤コガネ色の草

モミジも満喫。

中ノ芝を過ぎると視界が開けた。越後が誇る名峰(谷川連峰・巻機・越後三山)や尾瀬の山並、赤城山等の展望が開ける。

稜線上のピーク神楽ヶ峰に着く。やっと苗場山が姿を現した。富士見坂が鞍部に急降下しそこから苗場台地に向かう雲尾坂の急登はなかなかダイナミックな山岳風景。



急坂の途中には岩間から雷清水の湧き水、喉を潤すSさん。

すれ違う下山者が「小屋の親父さんが2時には降り出すから下の方ですれ違った人引き返すよ」と言っていたヨ。けどここまで来てたら平気だな」時は13時40分、いよいよか降るかそれも並みではないな！紅葉狩りは終わりにして急ぐか！

コルに到着、ここから雲尾坂の急登が最後に待ち構えていた。

天候の急変を告げる風が吹き始め、バラバラと大粒の雨がたたきつけてきた。

結構キツイ岩場、ジグザクの急登がいつまでも続く。幸いハイ松と低灌木が雨風の当たりと断崖のゾクゾク景観をやわらげてくれ登りに専念する。



登りつめると広大な（たぶん！ガスって見えない）湿原に入り2本の木道が我らを導く。

山頂ヒュッテのおぼろげな姿が風雨の中現れ到着する。

夕食時小屋番が「今夜半から明け方にかけて雪に変わります」

10/20

5時57分日ノ出時刻前、様子を見に外に出たSさん「木道うっすら雪でつるつる。

強い風とみぞれでむりむり」ご来光、苗場



山高層湿原ウォークどころか雲尾坂の岩場の凍結が心配だ。

7:25小屋発、山頂・湿原路へ。紅葉、晩秋の景色を通り越し苗場湿原台地冬景色、防寒対策バッチリなので、これも楽しい、しかし氷点下3度長居はせずに早々下山路へ向かう。

雲尾坂の雪の付着はただらで足場を選んで無事通過。霧氷の木々、氷をまとったナナカマドなど昨日とは異なる景色の祓川コースを下山した。



私の一言（佐藤聡美）

正に！秋の終わりと冬の始まりを体感したような山行でした。希望の苗場山に登れたことが嬉しいのです。

山頂手前鞍部に下り、最後の急登で冷たい風雨に当たり



大変でしたが、無事小屋に着くことが出来て良かったです。小屋はどこでも有難い所です。そして山はいつも色々な体験、季節の移ろい、自然の素晴らしさを教えてくれます。

下山後の蕎麦がとても美味しかった、温泉？も最高でした。

（記&写真・宮崎 敏男）

（写真提供・佐藤 聡美）

